

予約

私が選んだ記事はデザイナー向けで、色彩の基礎知識と心理効果を教える「色彩の芸術家に近づくための配色理論」という記事である。

まず、CMYK と RGB というカラーモデルを紹介する。簡単に言うと、CMYK は印刷用のカラーモデルで、RGB は画面用のカラーモデルである。なぜかという、CMYK は本物のインクの三原色を混ぜる方式で、RGB は画面の光の三原色を混ぜる方式だからだ。

次、色の三属性と色相環とトーンを説明する。色の三属性は色相と彩度と明度だ。色相環は輪の形に配置した虹だ。反対側で向かい合う色は「補色」と呼ばれ、左右にある色は「近似色」と呼ばれる。トーンは明度と彩度を掛け合わせる三角形だ。

最後に色相の心理効果を説明する。色相によって思い浮かぶイメージが違う。例えば、白は潔白、清潔、明かりなどのイメージが付いているので、清掃用製品の外装は大抵白い。だから、デザイナーとして配色を決める前に色彩の基礎知識や心理効果を理解した方がいい。

感想

私は専攻が二つある。一つ目は「日本語と日本文化」で、二つ目は「コミュニケーションデザイン」という専攻なので、私はデザインに対して重要な色彩や配色についての記事を選んだ。この記事の内容は英語で勉強したことがあるので、概念が分かるが、日本語の記事を読む前に日本語で説明できなかった。この記事のおかげで日本語のデザインの言葉が分かるようになった。

この記事はデザイナー向けだが、内容は誰でも役に立つ情報だと思う。例えば、パソコンでイメージを保存しようとする時、最終的な目的によって画像ファイル形式が違っていると知らなかったら、印刷する時かウェブにアップする時に問題になるかもしれない。そのような時のために CMYK と RGB の違いを覚えておいた方がいい。

色彩の基礎知識や心理効果はデザインだけではなく、他のことに役に立つ。例えば、パーティーの計画を立てて、配色を決める時に配色は全部近似色なら、つまらないが、補色を入れたら、パーティーの配色が目立つことになる。それに、色彩の心理効果が分かったら、配色を決める時に選択が単純になる。例えば、スーツを着る時にネクタイの色が大切なので、発散したいイメージに合うために適当な色を選ばなければならない。

デザイナーの目で世界を見るのは本当に面白いと思う。何かをデザインする時に、デザイナーは色々なことを考えなければならないので、デザインは注意深く作られた作品だと考えられる。

(1013 字)